

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 48 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曽」その十二（最終回）

陸揚げ

水を利用した運材「小谷狩」（第四十七回参照）は裏木曽では付知川を使って木曽川本流に合流するまで行われるのが元々であり、その後は木曽川に一本ずつバラで流される「大川狩」を経て岐阜県八百津町の「錦織綱場」で集められ、イカダに組まれて木曽川下流を名古屋方面に流されます。

昭和十四年の「木曽飛騨御料地位位置図」を元に運材のルートを示した概念図



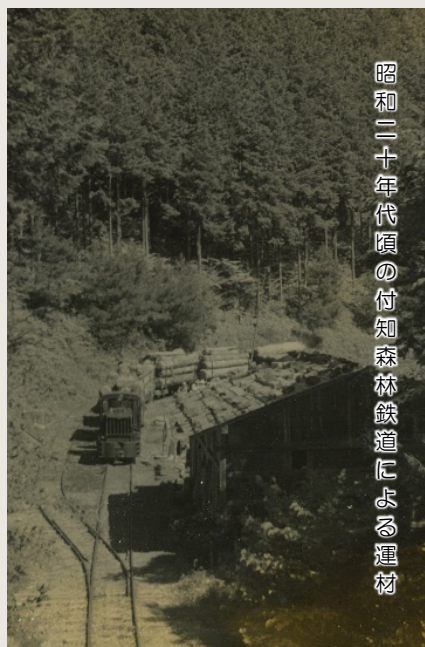
昭和十年代前半頃の付知川での木材陸揚げ風景

しかし、大正の頃には木曽川本流での電源開発が始まり、ダム建設と鉄道輸送の台頭で川を使った運材は衰退の時代を迎えます。裏木曽でも大正末期に中津町（現在の中津川市中心部）～下付知間に北恵那鉄道が開通し、木材を鉄道で運ぶ時代が到来します。

裏木曽の木材は「小谷狩」で付知川を下付知まで運ばれ、川から陸揚げされて北恵那鉄道の貨車に積まれました。木材を陸揚げする土場と北恵那鉄道下付知駅を結ぶインクライン（斜面にレールを敷き、ケーブル

で巻き上げ昇降をさせる施設）もあったとされます。陸揚げは木材の運搬に川を利用した時代と鉄道を利用した時代の過渡期に登場した独特の風景となりました。

昭和十年代前半には付知森林鉄道が完成し、山から下付知までの木材輸送も鉄道へと切り替わり付知川を利用した運材は完全に終わります。これが昭和三十年代にもなると、木材の輸送は林道を利用してトラックで行われる時代となり、裏木曽の森林鉄道もまた消えていくことになります。



昭和二十年代頃の付知森林鉄道による運材

一年間に渡るシリーズで「裏木曽」の林業風景を見て参りました。ご協力頂いた東濃森林管理署・中津川市の関係者の皆さんに感謝申し上げます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！

むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、下記コードを読み込んでください。

